

原田 義之

国際ロータリー第3360地区(北タイ)
チェンライロータリークラブ(会長)
NPO法人 JALET 理事長

続

輝く瞳に
会いに行こう

著者

原田 義之
はらだ よしゆき

1943年福島県生まれ。
慶應義塾大学商学部を卒業後、現・近畿大阪銀行に入行。
その後、フジマサ機工株式会社、ゼオテック株式会社代表取締役
に就任。
2006年同社代表取締役を退任。
2008年NPO法人タイ国学生日本語教育環境支援プロジェクト
— JALET — (<http://jalet.web.fc2.com>) を設立し、理事長
となる。
現在、タイ国国立ダムロンラートソンクロ高校日本語教師、
神戸市教育委員会生涯センター講師。
国際ロータリー第3360地区チェンライロータリークラブ2013—14
年度会長。
タイ少数民族アカ族の識字率向上へ向けた就学支援も続けている。



お名前

ご住所

メッセージがございましたらお願い致します。

続・輝く瞳に会いに行こう

著：原田義之

梓書院 刊

定価 1,600円＋税(送料別途)

ISBN 978-4-87035-598-9

四六版並製(カラーグラビア4P・本文276P)



目次

- 第1部 プロローグ
- 第2部 アカ族子供、今
- 第3部 ボランティア教師が見たもの
- 第4部 心にきらり
- 第5部 私は支えられた
- 第6部 奉仕に熱い日本列島

北海道編

東北編

関東編

東海・北信越編

関西編

中国編

九州編

- 第7部 奉仕の真理
おわりに

5年前に、「北タイの子供貧困」と「行動する奉仕」を広く知って欲しいと、著書「輝く瞳に会いに行こう」を著した。一方FB上に「北の便り」と銘打って、現地の貧困や、私の奉仕動静を、平日に毎日アップすること、1,136回続けた。そのようなことの回を重ねる一方で、全国で講演も200回を越す。「継続は力なり」と自画自賛する。

私の本分の北タイ「アカ族子供就学支援」と全国の、台湾のロータリーの関係者からご奉仕頂いたここ5年のご支援を、物語風に著してみた。それがこの「続・輝く瞳に会いに行こう」だ。

「原田さん、第5章はいつ読めますか」と、これまでにお声掛け頂いた愛読者のご期待に、これでお応えすることもできそうだ。

(プロローグより)

本文より (抜粋)

アカ族の子にサイルンがいる。彼女はアカ族子供寮「メコーン」に居た子供だ。中学を成績優秀で卒業した。先生は特待生扱いで高校進学を決めた。

父親が彼女の帰りを期待して待っていた。

彼女は嬉しそうに「お父さん、ただいま。私の話を聞いて。私ね、学年トップで中学を卒業したよ。だから先生が優先的に高校進学を決めてくれたの」と父に伝えた。

父からの返事は、非情だった。

「サイルン、高校進学はダメだ。直ぐに働いてもらう。お前がいない間に、赤ちゃんが一人生まれた。家族が一人増えて、これから生活が大変になるんだ」と。

5月の新学期になっても、彼女の姿は町のアカ族子供寮に戻らなかった。仲間たちは涙した。その涙を見た私は耐えられなかった。

私は親父を山の家に訪ね、直に必死に話し合った。その甲斐があって週2日通学で学べる郡立「特別学校」入学の許しを得た。

向こう3年間でかかる学費、通学費、教材費は私が負担しますと、約束をした。

こんな重い約束を交わして私は帰国した。

そんな私に優しく手を差し伸べてくれたのが「アカ族子供就学支援基金」(以降、「アカ族基金」)だ。

この会は私が北タイのアカ族子供たちに「就学と識字向上支援」で、奉仕行動するのを、資金面とアドバイスを添えて助ける会だ。

それまで熱く私を支えてくれたフェイスブックのロータリーの友の方々が中心だ。

晴れて2016年6月に発足、設立してくれた。これで幅広くアカ族子供の就学支援体制が整った。

それは「アカ族子供たちに希望に満ちた未来を提供してあげよう」と、国や民族の垣根を越えた国際奉仕精神の賜物だ。

以来「アカ族基金」は、アカ族子供寮生120人のその給食、学費、教科書、図書支援をしてくれています。更に貧困な家庭環境の子7人の里親支援も始めました。